

平成 27 年 2 月

保護者各位

弘文進学教室

平成 27 年度新学期の開始にあたって

暖かい春の到来が待ち遠しい今日この頃、ご父兄の皆様にはお変わりございませんでしょうか。平素より、当教室の教育理念についてご賛同ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

<高校入試>と<大学入試>について

ここ数年の間に、高校入試や大学入試が大きく様変わりいたしました。

宮城県の高校入試においても 2013 年度より、推薦入試が廃止されて学力検査を伴った前期選抜が導入され学校の内申点等だけではない、より客観的な評価基準が打ち出されています。

他方、大学入試においては二極化が進み、学力が十分に備わっていても入学できる大学が多くなった一方で、トップレベルの大学ではグローバルな人材育成のため高度な学力に裏打ちされた人間を求めようようになってきています。また、2020 年度より(現小 6 年生より)大学入試センター試験も大きく変わり、加えて個々の大学入試では、一点刻みの入試から面接などを取り入れた特色ある入試へと変貌する方向で検討されています。

これらの変革の背景には、子供たちが成人してしっかりとした大人になるためには何が必要なのかということが、根底で考えられていると思われまます。新入試での面接においても、ありきたりのトークではないその人自身の考えが表現できているか、どれだけ知的好奇心や教養を感じさせるかなどが評価の対象になるでしょう。

こうしたことは、子供たちが幼児期、小学校低学年のころから次第に身につけていくものであり学校教育だけでは止まらないものを含んでいます。当教室では、1985 年の開講以来「独立心を育てる」という観点から、「批判精神」を備えた「個人」の育成に重きを置いて学校というシステムに埋没させないよう、教科書等に依存しない体系化されたカリキュラムで指導してきました。その結果、多くの卒業生が強靱な「精神」を持った社会人として活躍しています。

これからも、子供たちが大人になって社会に巣立ったときのことを想定しながら、恥ずかしくない学力を備えさせるべく、これまでの経験を生かしてまいりたいと存じております。また、これまで「教育」への熱い思いを保護者の皆さまと共有できたことに対して、深く感謝申し上げます次第です。

